

# Mランドニュース Vol. 55

## 丹波ささ山校 平成23年10月1日発行

発行 (株)篠山自動車教習所 〒669-2436 兵庫県篠山市池上569  
 TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940 発行責任者 豊田文雄  
<http://www.sasayama-ds.com/> E-mail info@sasayama-ds.com

### 《今月の言葉》

どんな時代でも、自分が自主的に何かを欲し、自分自身の努力や忍耐によってそれを獲得することが楽しいことになり変わらないが、ものが豊かになってくるとこのようなことが自然に生じることを難しくする。

河合隼雄先生(こころの処方箋より)

### ファンの集いご案内

第六回

『Mランドファンの集い』

開催

十月二十三日(日)



「男子三日会わざれば刮目して見よ(しばらく会わないうちに人は随分成長するものだ)」という故事ことわざがあります。一年に一度の『ファンの集い』は、まさに互いの成長を確かめる機会になることを願っています。自分を振り返り、あらためて目

標を確かめる。もちろん旧交を温め合い刺激し合うことも「共に創り、共に育つ」をモットーとするMランドだからこそイベントです。

また、今年はいへん衝撃的な出来事がありました。三月十一日、多くの犠牲者を出した東日本大震災は、家族を思い、地域を思い、国を思う大きなきっかけとなりました。奇しくも昨年のこの集いで宣言した「三宝」は、日本再生を意識づける若い人の心構えであり、具体的な行動です。つい先頃襲った台風被害も併せ、被災された方々に勇気と希望が届くよう元氣な集いにしたいと思っています。

大勢の方にお越しいただき、新たな出逢いと再会、そして感動していただけたという企画してまいります。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

※三宝

- ・ 国の宝 公共の乗り物
- ・ 地域の宝 駐車場では遠くに停める
- ・ 家の宝 父親にだけキツチリ挨拶する

### Mランドウォッチング

Mランドでは、ゲストが披露されるそれぞれのパフォーマンスも楽しみの一つです。



→ ゲストの神谷様と鹿島様によるミロバーガーのメニューポスター(ご自分で申し出て描いていただきました)



仲間で作った動物音楽隊

見知らぬ者同士がセッションを共にする場合、少しの練習はできるものの綿密な打ち合わせができるわけではありません。協力してスムーズに意思の疎通を図ることがなにより欠かせません。それは自動車の運転にも似ていて、良い演奏になるように互いが楽器と歌で会話を楽しんでいるかのようです。



指導員も加わってのセッション



→ ドラムスの野村さん(西宮)



→ ピアノの河田さん(岐阜)



ボーカルの鹿島さん(愛知)



→ 友達の応援にも工夫して熱が入ります。



→ みんなで会場を盛り上げ、まさに「一座建立」(※茶道で、主客に一体感を生じるほどの充実した会となること)

八尾彰一

一九八七年、当時三十四歳のプロトライアスロン選手、城本徳満さんに弟子入りし、トライアスロンで生きていく覚悟を決めました。

城本さんのところには、トライアスロンのトップ選手はもちろん、自転車競技のオリンピック選手も頻繁に来られていました。そこでは、速さよりも、苦手な事にどう向き合うかが求められ、時には大雨の中、自転車三〇〇km走など、誰もが「無理」と思っていることにチャレンジするのです。

練習前には、「できないことはない、できないと勘違いしているだけ。できるまで何年かかってもやり続けること」と喝が入ります。その言葉を聞くと、途中でやめるわけにはいきませんでした。

一番苦しいところでは、城本さんが必ず先頭に立って私たちを引っ張られました。練習が終わると「みんな

のおかげで今日も頑張れたわ、ありがとう」とお礼の言葉を真っ先に言われるのです。やがて私は、トライアスロンレースで何度も失敗と挫折を経験して、「本気で頑張った自分」に初めて出会えました。「楽しいと思える練習や自分の好きな練習」だけでは出会うことがなかった心でした。

それから、自分にも素直に向き合え、練習で共に汗を流していただいている師匠やライバルの存在が力を引き出させてくださっているのだと感謝の気持ちでいっぱいになり、「ありがとうございました」と自然に心から言えたのです。

ご縁あって、一九九一年から二〇〇八年までトライアスロン実業団チームの選手兼コーチ、そして監督をさせていただきました。オーナーはじめ会社の方々からは、「世界の舞台で日本人が活躍する姿を見せてほしい」と言っていたいただき、そのことがチームの支えとなり

オリンピックや世界選手権大会で活躍する選手たちが育っていききました。チャレンジの過程で一番

大切だと思えたのが「させていただけることへの感謝」でした。いつも家族や仲間

に心を寄せて、共に挑戦させていたいただいていると感じると元氣になったのです。それは記録、順位といった形の残る価値よりも、今を全力で生きる(本気で頑張った自分)といった形のない心の価値が人生には大事だという

気つきでもありました。失敗と挫折を経験したおかげで、人として成長させていたいただいている。師匠、家族、仲間、ライバルの存在がいかに大切で尊いかを知りました。

競争の世界のはるか上にある勇者の世界は、私自身の心の変化と過酷なトライアスロンレースを何度も経験してこそ、知り得る世界だったのです。まだまだ夢の途中... ありがとうございました。



2004年アテネオリンピック  
八尾彰一氏(中央)

運転道

近頃、ぶつからない車というのが現われました。交通事故の多くはドライバーの不注意やミスに起因しており、自動車の性能向上でドライバーを支援し、事故防止を図ろうとするこうした技術は未来に向けてどんどん進化し続けています。

一方で、人間の性能を高めることでも事故を防ぐことは可能です。それは身体能力ではなく運転の技術に加え、運転する時の知恵や心がけとも言える精神的なことです。

心の教習所、Mランドとして「運転道」について提唱します。

皆さんは、そもそも運転道とは何だと思われませんか？

お茶には茶道、武士には武士道というものがあるように、車の運転にも「運転道」があってもいいと思いませんか？

一人ひとりが地球にも地域にも役立つような運転をすること。それが

「運転道」と呼ばれるものではないでしょうか？

つまり「運転道」とは、人の道を運転することに他ならないということです。安全な運転をするのはもちろんのことですが、地球や環境のことを考え、無用なアイドリングがどうしていけないのか、車内からのタバコやゴミのポイ捨てがどのように環境を害するか、クラクションの多用が何を引き起こすかなど。考えればもっともっと多くのことが出てくることでしょう。

私たちがドライバー一人ひとりが、ワンランクアップの運転をしていくこと。これが「運転道」の極意なのかもしれません。

「運転道」の免許皆伝を目指して、みなさんも自分自身にもう一度問いかけ、「運転道」を志してみましょう。



→ 教習所内にある道標  
ワンランクアップを目指そう！

編集後記

十月は神無月、全国の神々が島根の出雲大社に会議のために集結し留守になることに由来し、出雲の国だけは神在月と言われている。

暑い夏が過ぎ、実りの秋を迎える篠山は名産丹波黒枝豆の収穫の時期を迎えています。豊穣を喜び、遠くから祭囃子も聞こえてきそうです。

丹波黒大豆の栽培技術は約三百年息づき、全国に知られるブランド化も図られています。先人の辛苦、一年一年の積み重ねが今に輝き、私たちはその恩恵を享受させていただいています。黒豆にならない良い教習所になるよう力を尽してまいります。

(文)



一面の黒豆畑は篠山の見慣れた風景